

## 企業と資本市場をつなぐ会計の役割を考える

あさの だかし  
**浅野敬志**

商学部 教授

3・4年生23名と修士課程3名が所属する研究室です。財務会計を基盤に、企業情報と資本市場の関係を実証的に研究しています。

私たちの研究室では、「企業情報と資本市場」をテーマに、会計情報やサステナビリティ情報が投資家の行動や企業価値にどのような影響を与えるのかを実証的に分析しています。会計は、

企業の経済活動の結果をステークホルダーに伝えるための「ビジネスの共通言語」であり、投資家の意思決定を支える重要な社会的インフラです。企業情報の質や透明性は、資本市場の公正性や信頼性にも直結します。研究室では、この会計の情報提供機能に注目し、企業情報がどのように投資家の行動や企業価値に結びつくのかを探究しています。

近年は、企業が社会との共生を重視し、持続的な成長を目指す新しい動きにも関心を広げています。企業の情報開示は単なる義務ではなく、社会との対話を促す重要な手段です。その内容や伝え方によって、企業価値が変わることもあります。研究室では、データを用いてこうした情報の有用性を検証し、より良い情報開示や資本市場の形

成に貢献できる知見を発信しています。また、制度や実務の変化にも目を向け、会計が果たすべき役割を時代の中で捉え直すことも大切になっています。

教育面では、学部・大学院を問わず、学生が自ら問いを立て、データを基に検証する研究を重視しています。統計を活用した実証研究や、企業の統合報告書の分析などを通じて、数字とその背後にある企業の意思や戦略を読み解く力を養います。CFA協会リサーチ・チャレンジやQUICK社の統合報告書学生フィードバックサービス、インターゼミナールでの研究発表など、学内外で成果を発信する機会も多くあります。理論と実践を行き来しながら、社会的課題を会計学の視点から考える力を育んでいます。

「半学半教」の理念の下、教員と学生が共に学び合い、研究を通じて社会の仕組みを理解し、企業と資本市場のこれからの姿を探る。それが浅野研究室の目指す姿です。

### 会計とサステナビリティを実践から学ぶ

さとう しおり  
**佐藤 葉君** 商学部4年

浅野研究室では、財務会計や経営分析に加え、サステナビリティについても学び、日々ゼミ生同士が切磋琢磨しています。座学にとどまらず、実際の企業データを用いた実践的な学びが特長です。特にCFA協会が主催するリサーチ・チャレンジでは、定性・定量の両面から企業を分析し、投資判断をまとめたアナリストレポートを作成します。研究室はこの大会で2年連続国内決勝に進出しました。研究室には互いに教え合い、高め合う文化があり、卒論をはじめとする研究の途中経過の発表後には、活発な議論が交わされます。創設3期目の新しい研究室ならではの自由で活気ある雰囲気的魅力です。



# 看護・医療の視点から世界の健康格差に迫る

ふじや  
藤屋リカ

看護医療学部 准教授

世界各地での調査を通じ、健康格差の是正に取り組む研究室です。多様な経験を持つ学生たちが互いの知見を共有し、学びを深めています。

「すべての人に健康を」。これは、グローバルヘルスにおける究極ともいえる目標です。私たちのゼミでは、その目標に向かって、現代社会における問題や課題を明らかにし、国際的な視点を持ちながら、脆弱な立場に置かれている人々の健康について着目し、健康格差の是正を目指して、看護や医療が人々の健康にどのように貢献できるかを科学的根拠に基づいて実践・研究できるように、各自がテーマを持って取り組んでいます。

メンバーは、看護医療学部の4年生、健康マネジメント研究科の大学院生、助教、特任講師と私の総勢11名で、研究フールドは、パレスチナ、カンボジア、インド、ケニア、ルワンダ、日本（外国人の健康課題）等と多様で、研究活動等で海外に出ている学生もいるので全員が一堂に会することは難しいですが、それぞれの経験を共有し、互いの経験からの知見を分かち合いながら、学びを深めています。日本語、英語、アラビア語が飛び交う活気のあるグループです。

紛争や貧困は多様な要因が複雑に絡み合っており、人々は根源的な問題の解決が困難な中で生きていて、健康への負の影響は大きいのです。困難な状況にあっても、よりよく生きていくために人々が自ら実践している知恵や取り組みから学び、共に健康課題の解決を考えることが大切な視点だと考えています。

看護医療学部には、4年次に大学院健康マネジメント研究科の科目を先取り履修し、大学院に入学した後1年間で必要な残りの単位を取得し修士論文審査に合格することで修士課程を1年間で修了できる5年一貫教育プログラムがあります。保健分野で国際的な活動を展開していく場合、専門分野の修士号が求められることが多く、将来、国際機関等での活動に従事したいと希望する学生にとって魅力的なコースになっています。5年一貫教育プログラムの学生は履修科目が多く忙しいのですが、ゼミでは豊富な経験を持つ大学院生や教員と意見を交換しながら、積極的に学んでいます。

## 研究を通じて、自分の考えを自分に問う

うめだりさこ よしおかあおい  
梅田理紗子君・吉岡碧唯君 看護医療学部4年

藤屋ゼミは、多国籍のメンバーで構成され、教員や博士課程の学生も一緒に、国際保健看護分野の研究について実践や議論を通じ、学びを深めています。現在5年一貫教育プログラムの大学院修士課程1年生2名は、それぞれケニア、カンボジアで、修士論文執筆に向けた研究を実施しています。私たちは2024年の夏、紛争下における健康、人道支援などを学ぶことを目的にスイスにて、国際機関や博物館などを訪問し、専門家へのインタビューを行いました。グローバルヘルスの歴史的潮流と国際機関の役割を現場で働いている方から直接学び、キャリアと研究に生かしていきたいと思っています。

